

## 今日の説教のポイント<コリントの信徒への手紙二 4章5-9節>

### ①パウロの強さの秘密。

パウロは、人間（もちろん自分をも含めて）の弱さを十分知っていました。「土の器」とは、その人間の弱さ、もろさ、壊れ易さ、立派でなさを言い表そうとしたものです。しかしその土の器が、宝を内に納めているというのです。そうです、私たちは「キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださる」心の内に輝く神を宝として内包しているのです。神を内に納めて歩むその人生には、しかし、何の波風もたたずどんな困苦も起こらない、のではありません。キリスト者になったパウロの歩みは、その行く手を阻もうとするさまざまな力との葛藤の連続でした。しかし彼は、どんなに厳しい状況の中にあっても、「行き詰まらず、失望せず、見捨てられず、滅ぼされない」で、前に向かって立ち進み続けて行きました。内に納めている神の「並外れて偉大な力」に支えられてです。それが彼の強さの秘密です。

### ②人間は三つの窓を必要とする。

人間には、底窓—自分自身と対話する窓—と、横窓—隣人や社会に対して開かれている窓—と、天窓—人間や世界を超えたお方、神と対話する窓—と、この三つが必要だと言っている人があります。特に天窓の大切さに気付くようにと、その人は言います。神との対話（御言葉に聞き、祈ること）によって、自分や隣人や世界が何であるのかが分かり、自分を囲む世界を小さく閉ざされたものとしてではなく大きく開かれたものとして良く造っていくことができるのだというのです。確かに、下（内）と横ばかり見ているだけであるなら、八方塞がりとしか思えない状況もあり得るでしょう。しかしどんな時でも天窓は閉じられておらず、私たちを見、知っておられる神が対話の相手としていつもそこにいてくださるのです。その神とのつながりの中に、パウロの強さがあったのです。

### ③神を知り、神を喜び、神を讃美して生きることこそ、人生の目的。

改革教会の幾つかの信仰問答は、最初の所に③の表題の言葉を掲げました。私たちは、私たちの内に輝き、並外れて偉大な力をもって私たちに強めてくださる神を喜ばしく讃美し証ししつつ生きていくのです。